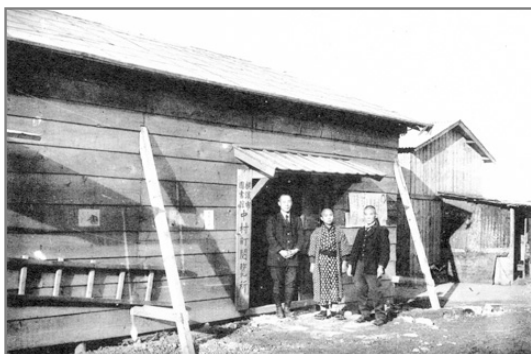
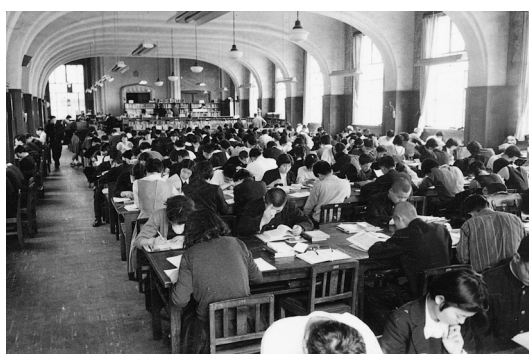


1 沿革

年	月	事 項	年	月	事 項
大正	8 (1919)	12 開港60年・自治制30周年記念事業として 図書館の建設を計画。	昭和	35 (1960)	5 日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。
	10 (1921)	6 横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で 図書の閲覧開始(横浜市図書館の開業)。		38 (1963)	1 新館増改築工事竣工。
	12 (1923)	9 関東大震災により建物と蔵書を焼失。 12 中村町のバラックに仮閲覧所を設置し、 閲覧開始。		44 (1969)	8 団体貸出用広報『ひろば』創刊。
	13 (1924)	3 横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に 震災展覧会を開催。 4 閲覧業務を実施。 9 館外貸出を実施。		45 (1970)	4 横浜市図書館報『こだま』創刊。 8 移動図書館「はまかぜ1号・2号」による 巡回貸出開始。
昭和	2 (1927)	7 旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。		47 (1972)	10 『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』 (横浜市社会教育委員会議)が出される。
	5 (1930)	1 『横浜市図書館報』創刊。		48 (1973)	11 「横浜市総合計画1985」策定。方面別図書館 建設の方針が出される。
	9 (1934)	11 巡回文庫開設(4隣保館に図書の一括貸出)。		49 (1974)	10 磯子図書館開館。市立図書館2館となる。
	12 (1937)	7 横浜市図書館を後援し各種文化事業を行う 「横浜読書協会」を設立。		52 (1977)	4 山内図書館開館。市立図書館3館となる。
	14 (1939)	4 町村合併により、都筑郡都岡村、田奈村、 及び鎌倉郡瀬谷村の各図書館を廃止し 本館閲覧所として設置。		53 (1978)	11 戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。 初めて貸出にコンピュータ方式を採用。
	19 (1944)	10 一般閲覧室を市会議場として使用。		54 (1979)	5 戸塚図書館で視覚障害者サービス開始。
	20 (1945)	3 横浜連隊区司令部の接収により戸部小学校 に移転。図書館の建物は、終戦後米軍に 続いて市復興局が使用。 9 戸部小学校から教育会館に移転。		55 (1980)	1 鶴見図書館開館。市立図書館5館となる。 5 金沢図書館開館。市立図書館6館となる。 6 磯子図書館(フォトチャージング式※1)、 山内図書館(記名式トークン※2)の貸出 方法をコンピュータ方式に転換。
	22 (1947)	8 移転先より野毛に復帰。 9 開架式で閲覧業務を再開。		56 (1981)	1 中国・遼寧省図書館との図書交換開始。 4 図書館間の連絡車が稼働。 10 横浜市図書館創立60周年記念講演会・ パネル展開催。
	25 (1950)	4 館外個人貸出開始。 図書館法公布で閲覧無料となる。		57 (1982)	12 「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館 建設及び中央図書館建設方針を確立。
	29 (1954)	10 団体貸出事業開始。 読書週間行事として1日図書館長(女優 岸 恵子)実施。		58 (1983)	2 戸塚図書館で団体貸出開始。
	32 (1957)	3 『郷土よこはま』創刊。		59 (1984)	3 金沢図書館、港北図書館で団体貸出開始。
	33 (1958)	8 巡回緑陰子供図書館を日吉の慶応大学構内 等で実施。		60 (1985)	1 瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。 3 保土ヶ谷図書館で団体貸出開始。
	34 (1959)	5 「サンディエゴ＝横浜友情文庫」を特設。 7 貸出文庫用自動車購入。翌年1月から本格的 に配本開始。		10 港北図書館で視覚障害者サービスを開始。	



横浜市図書館中村町仮閲覧所(大正12年頃)
『横浜市図書館概要』(昭和2年)より



横浜市図書館閲覧室(昭和35年)
(広報課写真資料(横浜市史資料室提供))

年	月	事 項	年	月	事 項		
昭和 61 (1986)	5	旭図書館開館。市立図書館10館となる。	平成 7 (1995)	4	都筑図書館開館。市立図書館17館となる。		
	10	「横浜市中心図書館基本構想委員会」設置。		5	緑図書館開館。市立図書館18館となる。		
	62 (1987)	1	港南図書館開館。市立図書館11館となる。	8 (1996)	1	1区1館の達成。	
		4	地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時までに延長(金曜日は以前から7時)。		1	中央図書館で来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始。	
		5	『横浜市中心図書館基本構想委員会報告書』提出される。	3	神奈川県図書館で視覚障害者サービス開始。		
	63 (1988)	10	神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。	5	中央図書館でCD-ROM検索サービス開始。		
		11	各図書館報を統合して横浜市中心図書館報『横浜』創刊。「文化の日」開館開始。	12	緑図書館で視覚障害者サービス開始。		
		12	保土ヶ谷図書館、金沢図書館で視覚障害者サービスを開始。	9 (1997)	3	磯子図書館、移転再整備工事が着手。	
		平成 元 (1989)	1		山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。	10 (1998)	3
			3	横浜市図書館貴重資料展示会「100年前の横浜大探検」開催。	旭図書館で視覚障害者サービス開始。		
2		泉図書館開館。市立図書館13館となる。	11 (1999)	3	鶴見図書館で視覚障害者サービス開始。		
3		栄図書館開館。市立図書館14館となる。	5	「庁内情報拠点化事業」開始。			
『横浜市中心図書館資料収集検討委員会報告書』が提出される。		11	磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。				
5		中図書館開館。市立図書館15館となる。	「予約図書情報ダイヤル」サービス開始。				
「こどもの日」開館開始。		12 (2000)	3	磯子図書館で視覚障害者サービス開始。			
11	「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す。	3	瀬谷図書館で視覚障害者サービス開始。				
2 (1990)	1	中央図書館建設のため横浜市図書館休館。	4	市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日拡大。中央図書館の火～金曜日の開館時間を午後8時30分までに延長。			
	3	横浜市図書館仮設館開館。	13 (2001)	12	市立図書館全館で月曜日開館開始。		
山内図書館で視覚障害者サービスを開始。	15 (2003)	1	図書館情報システムを更新。				
9	横浜市図書館を解体、中央図書館着工。	16 (2004)	3	蔵書検索結果の資料詳細画面に、目次、要旨、内容紹介等の情報を追加。			
10	泉図書館で視覚障害者サービス開始。	5	Eメールレファレンスサービス開始。				
3 (1991)	4	神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。	17 (2005)	4	ホームページにバナー広告掲載開始。		
	10	バンクーバー公共図書館との図書交換開始。	ホームページに「Yokohama's Memory《都市横浜の記憶》」を公開。				
10	中図書館で視覚障害者サービス開始。	地区センター等蔵書情報を公開。					
4 (1992)	10	栄図書館で視覚障害者サービス開始。	5	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」先行実施。			
	12	南図書館開館。市立図書館16館となる。	9	貸出レシートに広告掲載開始。			
5 (1993)	10	横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止。	10	インターネットでの予約サービス開始。			
	6 (1994)	1	各図書館で「横浜市中心図書館情報システム」による窓口業務開始。	12	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」開始。(二俣川、東戸塚両行政サービスコーナーでの貸出・返却サービス、東急田園都市線3駅への返却ポスト設置)		
2		中央図書館一部開館。	18 (2006)	2	中央図書館でインターネット閲覧サービス開始。		
4	中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼働。	10		「横浜市中心図書館のあり方懇談会」開設。			
12	南図書館で視覚障害者サービス開始。						
		「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。					
		1区1館達成後、図書館8館の新設と地区センター等とのネットワーク整備を計画。					

【参考:『最新図書館用語大辞典』(図書館用語辞典編集委員会/編 柏書房 2004)】

※1 フォトチャージング方式:16ミリまたは8ミリのフォトレコーダーによって貸出記録をフィルム撮影して保管する図書貸出方式。

※2 トークン式:登録者に貸出券と貸出冊数分のトークン(プラスチック製の札)を渡し、利用者が本を借りるときは、貸出券を見せて、図書貸出冊数分のトークンを渡し、図書に貼ってある日限票に返却予定日を押しもらう。図書を返すときは、返した図書と同じ枚数のトークンを受け取る方式。

年	月	事 項	年	月	事 項
平成 18 (2006)	12	「横浜市中期計画(横浜リバイバルプランⅡ)」策定。「市立図書館のあり方検討」を計画。中央図書館「医療情報コーナー」開設。戸塚図書館再整備工事着手。	平成 22 (2010)	3	金沢図書館耐震補強等工事完了。
19 (2007)	1	地域図書館5館※3でインターネット閲覧サービス開始。	4	山内図書館で指定管理者による運営を開始、あわせて平日火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長。	
	2	全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設。中央図書館「外国語本コーナー」開設。		7	中央図書館司書補助業務委託、及び書誌作成業務委託導入。
	3	中央図書館「ビジネス資料コーナー」改装。		9	国民読書年事業として「ヨコハマ、本の虫宣言～2010年は国民読書年」を開催。
	7	戸塚図書館再整備工事完了。		12	「横浜市立図書館司書人材育成計画」策定。
	8	「横浜市立図書館のあり方懇談会報告書」の提出を受ける。	23 (2011)	1	山内図書館で有料宅配サービスの試行開始。
	10	全館で「ティーンズ・サービス」開始。「地区センター等ネットワーク試行調査事業」拡充。(青葉区内地区センター等6施設での貸出・返却開始)		1	「横浜市立図書館アクションプラン」を策定。「横浜市教育振興基本計画」策定。図書館サービスの充実、交通の拠点となる鉄道駅での図書取次サービスなど、市民に身近で便利な図書館サービスの一層の充実についての検討を計画。
20 (2008)	1	中央図書館「音楽映像ライブラリー」改装。横浜市立図書館情報紙「@Lib」創刊。		3	「蔵書再構成5か年計画」を策定。「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」策定。
	4	中央図書館「PCリサーチコーナー」改装。		4	都筑図書館、戸塚図書館等司書補助業務委託導入。
	6	16館※4に液晶モニター付きAEDスタンド設置。			行政サービスコーナーでの図書取次サービスをオンライン化。
	12	中央図書館「法情報コーナー」開設。			簡易版蔵書検索システム開始。
21 (2009)	3	保土ヶ谷図書館耐震補強等工事完了。図書館ホームページリニューアル。全地域図書館にインターネット閲覧サービス拡大。			横浜市立図書館メールマガジンの配信を開始。
	4	横浜開港150周年事業を開催。(～12月)		6	横浜市立図書館創立90周年。記念事業開催。
	10	開港150周年にあたって小学生から募集した「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」を発表。		7	節電のため9月まで、中央図書館を除く地域図書館で、週1日輪番による休館を実施。
平成 22 (2010)	2	文部科学省による図書館プロジェクト「図書館海援隊」(課題解決支援サービスに取り組む図書館で構成)に参加。	24 (2012)	1	地域情報発信のための基盤整備モデル事業実施。

※3 地域図書館5館:旭・金沢・緑・都筑・栄図書館
 ※4 16館:全18館のうち、金沢・都筑図書館を除く16館



現在の横浜市中央図書館